

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

※生成 AI による要約を行なっています。

令和 6 年10月 28 日 かがやきキッズクラブ

進行

これより市民と市長との対話集会を始めます。私はかがやきキッズクラブの指導員で、高校教員を 35 年間勤め、特別支援教育に興味を持った。退職後、東濃特別支援学校の寄宿舍で 6 年間勤め、その後 3 年間ここで世話になっている。はじめに理事長より挨拶をお願いします。

理事長

おはようございます。本日は、市長さんとの対話ということで、かがやきキッズクラブの誕生から現在、そしてこれからの話をしたい。

市長

市民との対話集会を 4 月から始めて、本日 24 回目。予め定めたテーマに関して、より良くするために話し合い、また市の政策に生かしていきたい。今日はざっくばらんに、皆さんの日頃の取り組みについても伺いたい。

進行

かがやきキッズクラブの歴史について理事長からお願いします。

理事長

かがやきキッズクラブは障がいのあるお子さんの親、特に母親たちが始めた学童保育所。自分の次男が腎臓の病気で、発達の遅れのため養護訓練センターに通い、発達支援の重要性を感じた。

小学校入学の際、希望する学校に入れないかと教育委員会にもお願いをし、地域の小学校に新たな教室を新設し、担任までつけてもらった。そのおかげで支援の輪も広がった。

一方、放課後や週末の支援が課題となったが、東小学校の先生や保護者さんが愛教室を利用して、放課後の会を立ち上げてくれ、充実した生活を送ることができたが、中学生になる子の居場所がなかった。そこで、子どもたちの未来を考える会を立ち上げ、空き部屋となった現在の場所を借りて、障がい児学童保育所をかがやきキッズクラブとして開設した。

その後、子どもも増え、小学校から高校生までの福祉制度がなかったことから NPO 法人化し、日中一時支援事業や放課後等デイサービスを始め、認定 NPO 法人を取得するに至った。

進行

次に、障がいのある母親を支えたいということについてお願いします。

参加者

地域の中で発達障がいについての理解を深めることや支援方法の共有が重要と感じ、かがやきキッズ通信を発行することにした。子どもの成長やお母さんたちの思いを発信し、発達障がいに対する支援を広める努力をしている。

進行

続いて、地域連携についてお願いします。

参加者

県や国の研修や勉強会に参加することで、他の地域の取り組みや課題を知り、地域間の違いや中津川市の利点などが発見でき、中でも人とのつながり、みんなが集まれる場があるというのは、地域連携のしやすさにつながる。

進行

かがやきキッズでは、子どもたちにできるだけ多くの体験をしてほしいということで、電車体験を行なった。準備から当日まで、大変な苦労があるが、ここのスタッフの方々の「自分の子どものことを考えたら当たり前」という心構えに驚かされる。

参加者

健常者としてどう関わっていけばいいのか悩むこともあったが、自分が高齢になり障がいが多くなる中、不自由になった時の気持ちや手を貸してもらえたときの有難さを実感し、障がいの問題は人間同士の問題だなと感じた。

参加者

どんな障がいを持っていても安心して生きていける、途切れることなく支援を受けられる中津川市になってほしい。ここで頑張っている方々の支援もしていきたいと思う。

市長

保護者の皆さんが立ち上げ、引き続いて運営をしてくださっていることに感謝する。途切れない支援のためには、支える側の皆さんも途切れなくすることが重要。

また、方法はいろいろあるが、取り組みを知ってもらえる場を作っていくことが、新たなつながり、人的・金銭的な協力につながると思う。

地域連携はとても大事で、より良くしていくための材料になる。

しっかりと連携をとっていくことが大事だと思うので、また情報共有もさせていただきたい。貴重なお時間をありがとうございました。

理事長

今後も相談させていただきたい。本日はありがとうございました。